荒尾市立府本小学校　校長便り　№.１０１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年5月29日(金)

独り言

先日、たまにはと夫婦で食事に出かけました。そこでこんな場面に出くわしました。２０代前半と思しき青年と、そのお母様だと思います。青年と母親はイートインコーナーで食事をしていました。何気なく目をやると、青年の箸の使い方とお椀の持ち方が良くないのです。お椀に人差し指をかけて持つ持ち方って分かりますか?いい年の青年がその持ち方は無いでしょ…って思いながら、更にびっくりしたのは、お母様はそれを嬉しそうに眺めながら、「○○ちゃん、おいしい?」と言って、お椀の持ち方を注意しないのです。私は子どもの頃、かなり厳しく言われていましたので、気になって仕方がありませんでした。

他人のご子息に大きなお世話と言われそうですが、学校現場では見過ごす訳にはいきません。給食時間に各教室を見渡しますと、同じような持ち方をしている子ども達がいるのも事実です。更には、飯器、汁器を手に持たずに口を近づけていく、いわゆる「犬食い」と呼ばれるような食べ方をする子もいます。ご家庭でも要チェックです。

夜噺「主体的協働的梅雨の遊び」

今年の梅雨入りはいつ頃になるのでしょうか。この文章を執筆しながら、校長室から雲り空を眺めています。今年の梅雨は短いという話も聞こえてきて、日本の気候が温帯から亜熱帯に変わってきているのかなとぼんやり思います。

さて、梅雨の時期、外は雨が降ることが多いので遊びは限定されてしまいます。かたつむりを見つけて観察なんてのも良いですが、外にいる時間は晴れた日に比べれば短いものです。室内でも退屈せずに過ごす方法…、私は色々な趣味に費やす時間が多いのですが、最近では家族の買い物に付き合わされることもしばしばです。

その買い物に付き合ったときのこと、あるスーパーのレジの横に、雑誌が陳列されていました。その中の“漢字ナンクロ”という文字に引かれ、気の向くままに購入。もっと引かれたのは、商品の数々です。商品の中には“現金2万円”ってのもあり、早速自宅に帰り、食事しながらのチャレンジです。趣味に使うお金を稼ぐ?ために、私は真剣です。手元に辞書を置いて問題に取り組みました。するとどうでしょう。あっという間に時間が過ぎるではありませんか。大人でもこれだけ楽しめるとなると、子ども達も結構のめり込むのでは?　重ねて、漢字の学習にもなるし。まぁ、漢字ナンクロは少々難しいので、普通にクロスワードパズル等は如何でしょう。梅雨の時期の暇つぶし?　いや、商品（賞金）稼ぎ?の主体的取組です。家族協働で取り組んでもいいですね。その活動の中で親子の「あ～でもない、こ～でもない。」と会話が生まれ、知識を積み重ねることもできる、一石二鳥の取組です。

私は、先日、あるクロスワードに挑戦したのですが、中々に難しいものです。でも、解けた時の達成感は非常に大きいですね。梅雨のさ中、こんな暇つぶし?も楽しいものです。（私のように商品、賞金当たると、応募しても中々当たりませんが…でも真剣です!?）最近は応募期間が長い雑誌もあり、梅雨の時期の活動にはピッタリですよ。大人もはまる漢字ナンクロ、やってみませんか?

シリーズ「自分を語る」#１０１

韓国の研修員、チェさんも同様に帰国の手続きが進みました。チェさんは熊本発アシアナ航空の飛行機で帰国しました。仁川（インチョン）空港経由で帰国したため、少々時間がかかりました。チェさんのご自宅は韓国の忠清南道にあるため、南下する必要があったためです。韓国に到着したチェさんは私に国際電話をくれました。「プジニッチキマシタ。サウダサン、オクサントカンコクニキテクダサイ。」嬉しい一言でした。自分の教え子が世界各国で活躍していると思うと、身の引き締まる思いと同時に、国際人としての資質を考えさせられる時間でもありました。

さて、残るは県費留学生2名です。ブラジルからの留学生です。彼らもそれぞれの大学で多くの研修と思い出を胸に、帰国の準備をし始めていました。その様な忙しい生活の中で、彼らが私を食事に誘ってくれました。私自身も忙しかったのですが、早めに県庁を出て下通りのお店へ。

談笑しながら、彼らが口にする言葉は思い出と同時に、私に対する感謝の気持ちでした。「澤田さんが私達の担当者でよかった。そうでなければ、こんなに楽しい留学にはならなかった。」とか、「澤田さんの従兄弟もブラジルにいるのでしょう?絶対に遊びに来てください。」等々、嬉しくなる言葉ばかりでした。ブラジルからの留学生や研修員は、以前お話ししたとおり、日本語のコミュニケーションができます。よって、どんな席でも会話は日本語です。私は外国の肩とお酒を飲んでいるという感覚は、殆どありませんでした。どちらかというと教え子達、あるいは弟達と飲んでいるようなそんな感覚でした。

２人の留学生は年度末ギリギリまで日本にいるため、研修報告は早めに提出していました。私は、研修員や留学生の報告書を点検添削した後、課長決裁を貰って浄書センターで印刷となります。県庁の地下２階（当時）にある大きな印刷室です。そこで「このように印刷をお願いします。」と言うと、印刷製本までやってくれました。それを、私が各国の熊本県人会や研修関係施設、支援団体に送付します。何か卒業文集を作っているような気がして、嬉しかったことを思い出します。その作業と並行して、留学生の帰国に関しての事務手続きも行っていました。更に、この時期は次年度の留学生の募集をかけ、留学生を決定し、来日させる為の手続きとこちらでの生活がスムーズにできるように手続きをする必要がありました。３社見積もりについては慣れてきていましたが、ブラジルやメキシコとの電話連絡は緊張感がありましたね。地球の裏側に電話をかけて、担当者との打ち合わせ、留学希望者との面談等、我ながらよくやったなぁと思います。

いよいよ、留学生帰国の日がやってきました。やはり教え子との別れはほろ苦いものです。福岡空港から成田へ移動し、そこからニューヨーク経由でサンパウロに向かいます。海外経験のない私澤田が、よくもまぁ、地球の裏側から留学生を呼び寄せ、また送り返すなど、ほんとよくやりました。留学生が搭乗ゲートに消えていく姿を見送りながら、いつかブラジルにも行きたいと思う澤田でした。そして、国際課の送別会。いよいよ学校現場へ戻る日がやってきます。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）